

平成 26 年 12 月 19 日
豊田市 足助事務所

木づかいガイドライン作成資料について

- 1 木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について
- 2 木づかいガイドラインの原稿依頼について
- 3 木づかい推進・木づかいガイドライン事業のための各市町村連携による予算化について
- 4 スギダラどこでもシリーズの製作内容について
- 5 スギダラ矢作川流域支部の発足及びコンセプトについて
- 6 スギダラキャラバンについて
- 7 森づくり・木づかい推進シンポジウムについて

木づかいガイドライン作成・活動方針（案）

1 木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について

提案者・モニター・場所についての考え方は下表のとおりとして、共通認識を持って、その役割を担う方・場所を選定したい

区 分	内 容
提案者	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに木づかいの実績のある方 ・その取り組みが将来的な木づかい推進に結びついている方 ・心から本心でその木づかいに取り組まれている方
モニター	<ul style="list-style-type: none"> ・その提案に対する見込客と考えられる方 ・その木づかい推進の中心的な対象（年代）と考えられる方 ・その方に教えると多面的な展開が期待される方
場所	<ul style="list-style-type: none"> ・その取り組みの実績がある場所 ・その取り組みを発信する際、中心的な方・組織の存在する場所 ・その取り組みの活動拠点が作れるところ
イベントの性格	<ul style="list-style-type: none"> ・木づかい需要創造イベント ・木づかい体感・センスオブワンダーイベント ・木の感謝祭イベント

2 木づかいガイドラインの原稿依頼について

木づかいガイドラインの原稿依頼については、次のとおり共通認識を持ちたい

- ・ 提案者は上記のモニターと一体となって、その取り組みを広げていく「木づかいの潮流」を意識して、原稿を作成する
- ・ 特にモニターを「見込客」と意識することから、モニターに何を感じてほしいか、興味を持ってもらいたい点は何か、を明確にして提案する

NO	原稿依頼者	テーマ	時期

- ・ 当面、すぐに記載が可能なネバリン・豊田森林組合からスタート
- ・ 趣旨の説明文
- ・ ガイドラインの案内文

3 木づかい推進・木づかいガイドライン事業の各市町村連携による予算化について

今後の「木づかい推進・木づかいガイドライン事業」を進め、木づかい推進による「地域森林資源の整備と活用」、「木づかい上下流連携によるフェアトレードの実現」、「木づかい推進スタイルの確立による持続可能な地域づくり」等、実効性を高めるためには、矢作川流域圏懇談会に参加されている各県・市町村・関係団体の持続的・共通認識的な予算化による支援が必要と考えられる。

そこで、こうした各関係団体が「木づかい推進」の必要性を認識し、予算化しやすくするため、国土交通省及び「山部会からの提案＝各県の木づかい推進を願う市民」からの声として、矢作川流域圏懇談会に参加されている各関係団体へ「木づかい推進・木づかいガイドライン事業」の予算化を要望していきたい。そのまとめ役は国土交通省とし、その内容（案）は以下のとおりである。

予算依頼者	事業名	ポイント
県	・木づかい推進活動拠点支援事業	・木づかい推進に必要な活動拠点となる施設・空間の提供・設置に対する支援 ・木づかい推進活動の「道の駅」利用に対する斡旋
市町村	・木づかい推進活動支援事業	・木づかい推進活動に必要な人件費・試作材料費・活動場所提供等に対する支援
団体	・木づかい推進事業	・木づかい推進・普及を図るための独自予算化

4 スギダラ「どこでも～シリーズ」の製作内容について

山部会における木づかいガイドライン作成にあたり、今後多面的な活動が予想されることから平成26年9月3日の「全国スギダラケ倶楽部」の若杉会長の講演をきっかけに、「スギダラ矢作川流域支部」の設立及び支部長の任命が計られ、事務局を根羽村森林組合とし、支部長については山部会木づかいガイドライン担当の今村が担うことに決定された。再度、この決定について10月17日の山部会で再確認を行った。

すでに、木づかいについては根羽村がリーダー的な役割を担って欲しい、との意見もあることから、根羽村における木づかい推進活動については「スギダラ矢作川流域支部」としての活動としてもリンクさせたい。

そこで今後、根羽村における木づかい推進活動も「スギダラ矢作川流域支部」の活動に組み込み、市民の全ライフステージに関われるようなスギダラ（ヒノダラ・広ダラ）商品をモ

ニターの意見を取り入れながらデザイン化して、「どこでも～シリーズ」として試作する。

販売については、スギダラ活動の精神である「誰でもどこでも製作販売できるオープン商品」としたいため、デザイン料を販売価格の5%に設定してデザイン提供者に支払う形で、販売製作者を限定せずにスギダラ製品を流域内に広めていきたい。

矢作川流域圏懇談会ご提案・ご推薦

「人が居心地よく居られる場所・空間」づくりのためのスギダラ製品（案）

NO	製品名	内容
1	どこでも足湯	V1、V2
2	どこでも露天風呂	
3	どこでもブランコ	
4	どこでもピザ窯	ピザ窯用台座
5	どこでも屋台	KATARI-BAR、コンパクト屋台、連結決傘屋台、機内もっこみ屋台
6	どこでもウッドデッキ・ベンチ	杉太、高杉太、ちよいと一杯飲み杉太、タコ杉・イカ杉、タコマツ、イカマツ、コーンマツ、ノシマツ
7	どこでもなんでもテーブル	
8	どこでも紙芝居	
9	どこでも焼菓子店	
10	どこでもバンブードーム	
11	どこでも屋外用読書イス机	
12	どこでも木の内装	
13	どこでも木の看板	
14	どこでも地元の木を使った木の家	

5 スギダラ矢作川流域支部の発足及びコンセプトについて

発足

「スギダラ矢作川流域支部」は、矢作川流域圏懇談会の山部会における木づかいガイドライン作成にあたり、今後多面的な活動が予想されることから平成26年9月3日の「全国スギダラケ倶楽部」の若杉会長の講演をきっかけとして、その当日に設立されました。支部構成員は矢作川流域圏懇談会に関連する木づかい推進活動者です。事務局は根羽村森林組合、支部長は、木づかいガイドライン担当者の今村に決定されました。

コンセプト

「スギダラ矢作川流域支部」は、「全国スギダラケ倶楽部」の活動趣旨に準じ、戦後の復興期に段階的に植栽されてきた矢作川流域のスギやヒノキを始めとする人工林をきちんと活用することを目的とします。同時に、森林の整備を推進して森林の公益的を高め市民生活を守ると共に、流域内の林産業の振興による山村・里山の経済的な自立を図ります。

さらに、矢作川流域市民の全ライフステージを対象に、矢作川流域の人工林を活用した「スギダラ」活動による木づかいにより、市民生活の様々な場面における魅力的な生活空間を創造して「地域の人の輪」、「地域の元気」を生み出すことを目的とします。

注)「スギダラ活動」とは、流域内のスギ・ヒノキの人工林や広葉樹をきちんと活用して、あらゆる生活空間を「スギダラケ（ヒノキダラケ・広用樹ダラケ）」にする活動である。

6 スギダラキャラバンについて

「スギダラ矢作川流域支部」の発足に伴い、今後「スギダラ製品」の展示や木づかいイベントを流域内の公園、道の駅、保育園、小学校等の校庭等で開催し、そこに各森林組合、地元工務店、木材関連業者、地元企業、地元商店街、とよた森林学校の卒業生、地元の木のファン等がジョイント的に「木づかいに共感」を持って参加できるような「スギダラキャラバン」を定期的で開催し、地域を元気にする「人の輪」を作っていければと考えます。

また、木づかい推進活動を支援していただける各市町村や教育委員会等と連携して、実行者が余り大きな負担を感じることなく、流域市民の全ライフステージに渡って「木の魅力」を伝え、地元の生活空間を「人が居心地よく居られる場所・空間」にしていくスギダラ（ヒノダラ・広ダラ）活動に発展させていくきっかけづくりにしたいと思います。

全国的な市民運動となった「森の健康診断」や「木の駅プロジェクト」の成果と併せて、今度は「生活空間に木を使おう・木づかいライブ・スギダラキャラバン」を矢作川の地から発信できればと思います。

「生活空間に木を使おう・木づかいライブ・スギダラキャラバン」(イメージ案)

場 所

区分	緑地公園	道の駅	商店街	校庭	集客施設	祭り	イベント	里山
愛知県								
岐阜県								
長野県	ネバーランド・平谷スキー場	ネバーランド・平谷道の駅	根羽村民駐車場	根羽トレーニングセンター	グリーンハウス森沢	7年祭・やまあいフェス	ねば来恋	月瀬の大杉・小戸名溪谷

実践者

区分	森林組合	流域圏 懇談会	担い手グ ループ	地元市民 グループ	地元 工務店	地元商店 街・企業	大学
愛知県	豊田・岡崎	○					
岐阜県	恵南	○					
長野県	根羽・ 飯伊	○	木の駅・ ねばりん	すぎっ子 餅・ 猟友会	名工家	アイシン グループ	信州大 学・岐阜 女子大学

木づかいライブ内容

木工作等	木のペン ダント	木の表 札・木は がき	弓矢・ 的あて	輪っば 弁当箱	箸づくり	水鉄砲	木材業者 木の 展示品
どこでも シリーズ	どこでも 足湯	どこでも 露天風呂	どこでも ブランコ	どこでも 屋台	どこでも バンブー ドーム	どこでも 紙芝居	どこでも ウッドデ ッキ・ベ ンチ
踊り	アヒルの ダンス	よさこい	カルメン	イナバウ アー			
ロック	岡崎フォ レスターズ						
食	根羽村 食の文化 祭	根羽村 しし鍋	根羽村 鹿肉カレ ー	宮崎茶			
近くの木 質内装化 対象施設	駅舎	サービス エリア	待合室 子供施設	病院	喫茶店	商店街	空港
ご案内・ 配布資料 等	森・木づ かいガイ ドライン	担い手グ ループ集	蔵治・丹 羽・洲崎 書籍	とよた森 林学校 パンフ	各森林組 合パンフ	地元工務店 木の家づく り資料	その他森 と木のガ イド集

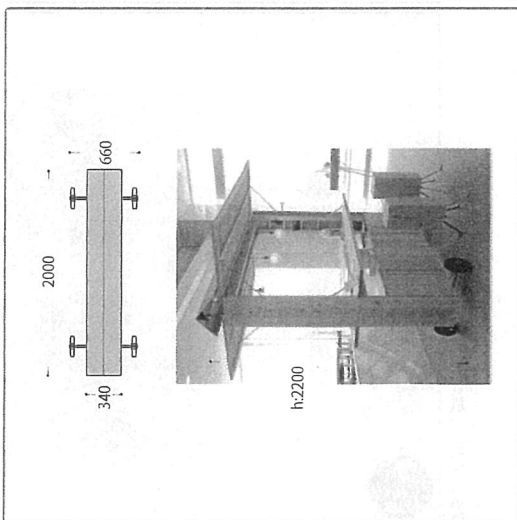
資金支援事業

区分	内 容
愛知県	
岐阜県	
長野県	木育関係事業・地域発元気づくり支援事業・信州の木活用事業・根羽村林業振興補助金・公募事業

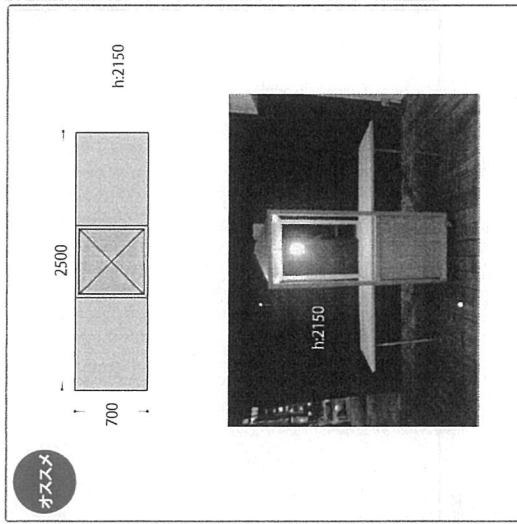
屋台平面図

S=1/50

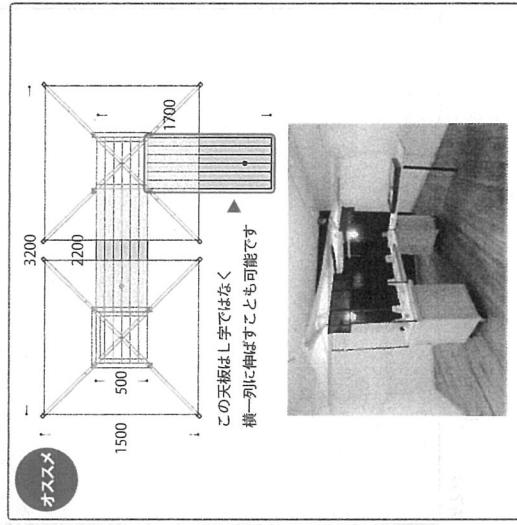
KATARI-BAR 1台



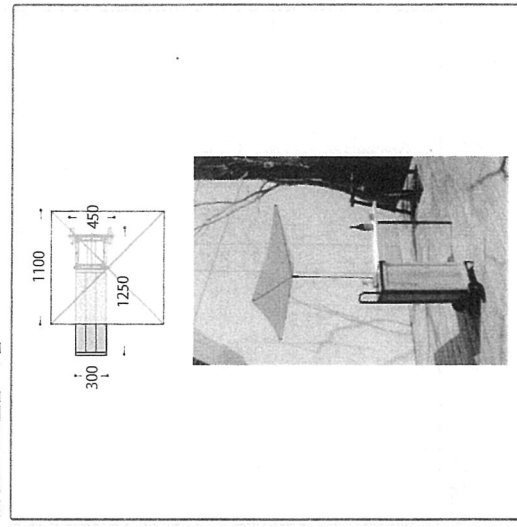
コンパクト屋台 1台



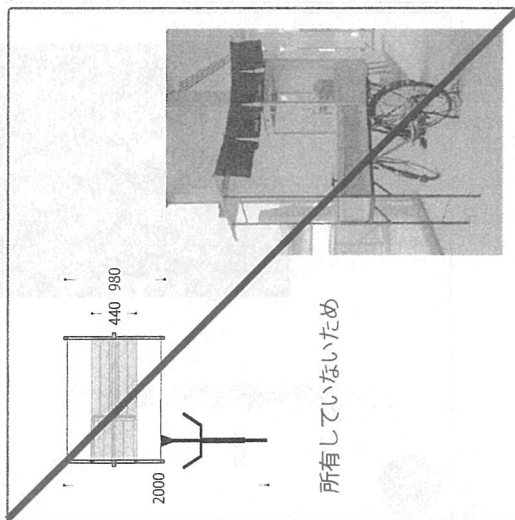
連結式屋台 1セット



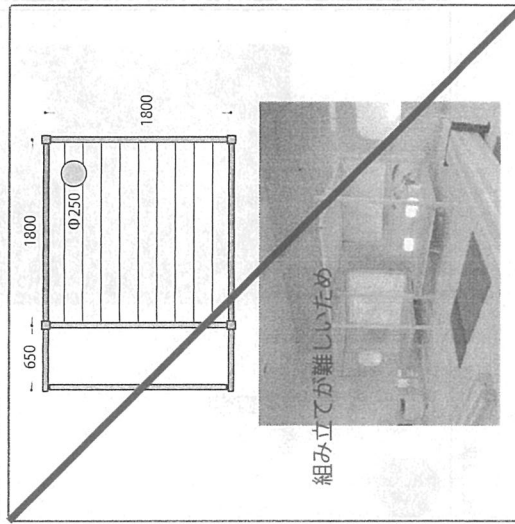
機内もつみ屋台 1台



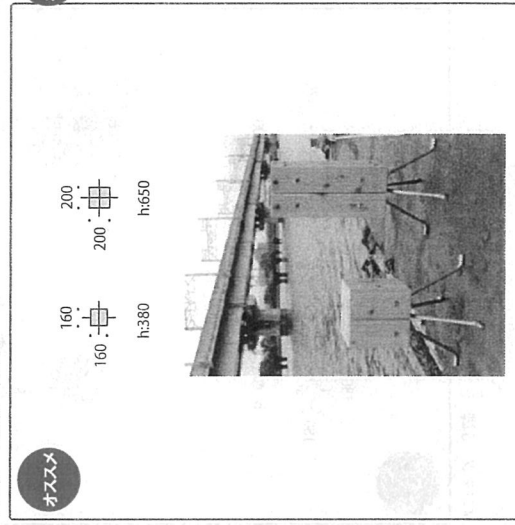
自転車操業屋台 0台



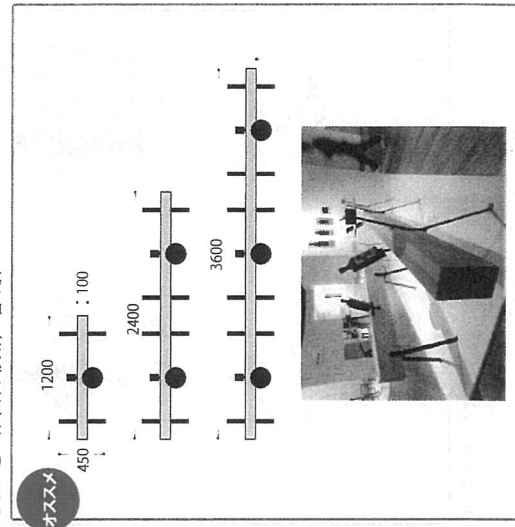
杉デント 2セット



タコ杉・イカ杉 各2脚



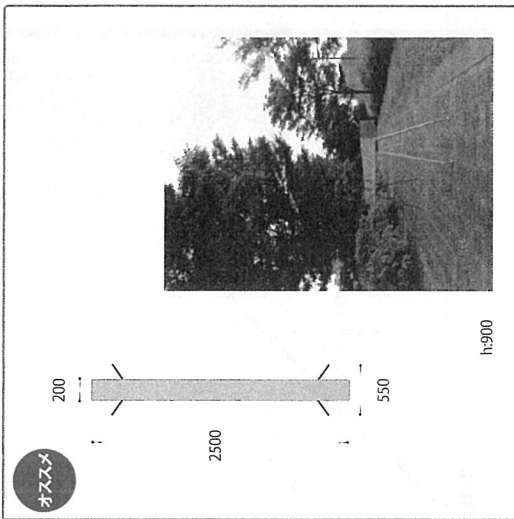
ちよいと一杯 (飲み杉太) 各1脚



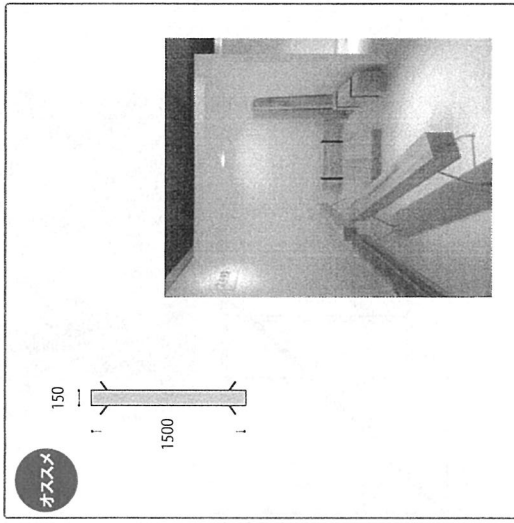
屋台平面図

S=1/50

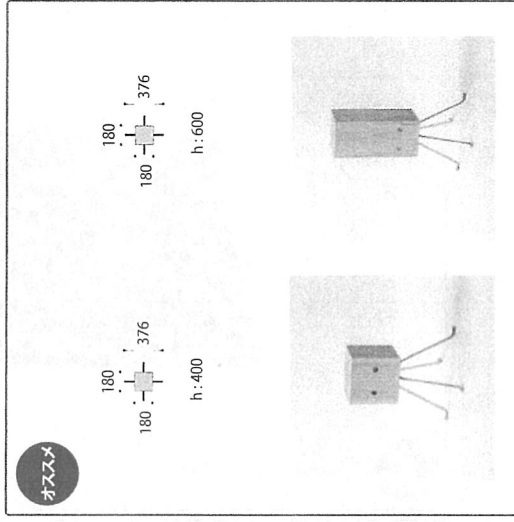
高杉太 1台



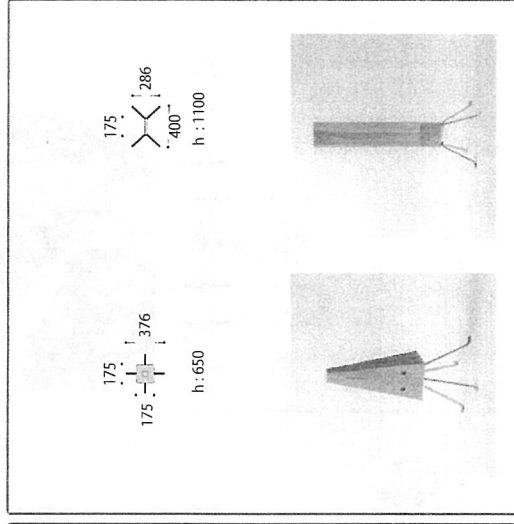
杉太 2脚



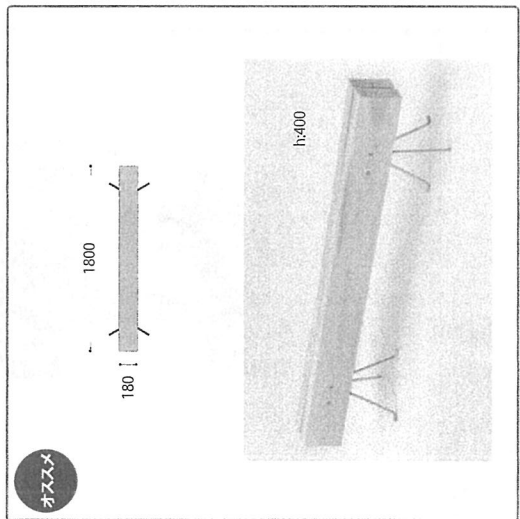
タコマツ 6脚 ・ イカマツ 0脚



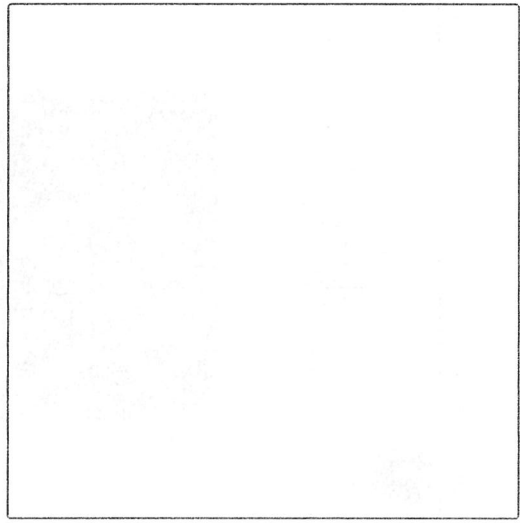
コーンマツ 2脚 ・ ノシマツ 1脚



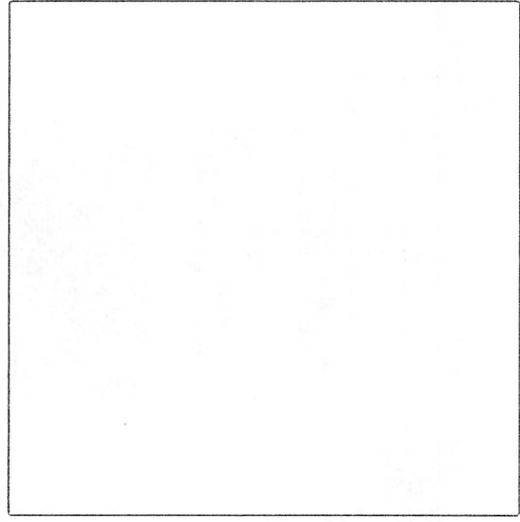
フタコマツ 1脚



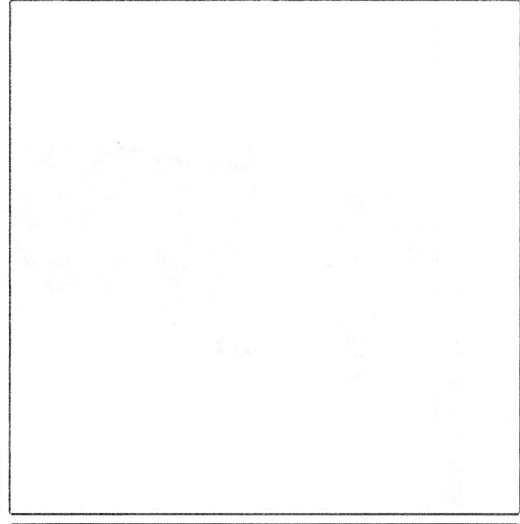
杉太



動き杉



〇〇〇〇





(案)

長野県・岐阜県・愛知県合同主催 矢作川流域圏 森づくり・木づかい推進シンポジウム
矢作川流域における森林資源の管理・活用と県境を超えた市民産官学連携による
これからの持続可能な流域づくりを考える

1 基調講演 10:30～12:00

「矢作川流域における森林資源の管理・活用と県境を超えた市民産官学連携による
これからの持続可能な流域づくりを考える」
東京大学生態水文学研究所 所長 蔵治光一郎

2 事例発表 13:00～15:00

長野県 根羽村森林組合 代表理事 大久保憲一
「根羽村トータル林業と上下流連携・木づ
かい推進による持続可能な地域づくり」
愛知県 豊田市経営戦略室 政策監 原田裕保
「豊田市における市民が中心となった地
域森林自治の取り組みと地域材活用」
愛知県 矢作川水系森林ボランティア協議会 代表 丹羽健司
「全国的な市民活動となった森林の健康
診断 10 周年を迎えて」
岐阜県 NPO 法人 奥矢作森林塾 理事長 大島光利
「地域資源を活用した田舎暮らし提案と
山村部における定住促進の取り組み」

3 パネルディスカッション 15:00～16:30

コーディネイター 信大農学部教授 植木達人 または
慶応義塾大学教授岸 由二

テーマ「矢作川流域における森林資源の管理・活用と県境を超えた市民産官学連携
によるこれからの持続可能な流域づくりを考える」

パネラー 講演者及び各事例発表者

4 日 時 平成 27 年 1 月 23 日あたり、またはそれ以降
場 所 「根羽村しゃくなげ」または「豊田市公共施設」
展 示 チャレンジスギダラ製品

(例)

今すぐはじめる木のある暮らし

矢作川流域 「木づかいガイドライン」



矢作川流域圏懇談会

「森づくり・木づかいガイドライン」の作成及び活用することの意義

矢作川流域住民の社会生活に欠かせない水資源の安定供給を図るためには、矢作川流域にある森林資源を適切に管理して、自然災害に強く、大雨の時にも水を蓄えることのできる水源かん養機能等の森林の持つ公益的機能を発揮できるような森林に整備していく必要があります。

特に、将来木を伐って利用することを前提にして植えられた上流域に存在するスギやヒノキの人工林は、現在 40 年生以上の森林が多く、計画的な間伐により木の年齢に応じた適切な立木本数を維持していく必要があります。これは、木材として木を太くする必要性と、林内に陽光を入れて地表面の草や灌木類等の植生を繁茂させ、森林土壌を育成させて、降水による雨水の保水機能を高めるためです。陽光が林内に差し込まない暗い人工林は、地表面の植物が育たず森林土壌が育成されないため、雨水が地表面から浸透せず表面水として流れてしまい、その表面水が地表面を浸食して山崩れや鉄砲水等の山地災害発生の要因となります。平成 12 年、長野県南部や愛知県・岐阜県における恵南豪雨の際、矢作川ダムに流れ着き堆積した約 35,000 m³の木材の残骸は、その大半が間伐されずに放置されていた過密な人工林によるものだったことがその後の調査で判明しており、その他にも同地域の山崩れの多発や、増水による豊田市での一部堤防欠壊等、過密となった人工林の保水力の低下が災害発生の大きな要因になっていると考えられています。

また、隣り合う木と枝先が触れ合った時に間伐をしないで放置すると、次第に樹木の下側の枝の葉に陽光が当たらなくなってくるため、立木の枝が下から枯れあがって樹木全体の葉の量が減少します。そうすると、光合成を行う葉の量が減少して、木を太くすることが困難になってしまい、木材として必要な太さが確保できず、木材として利用しづらくなってしまいます。

現在こうした間伐等の森林整備については、国の森林整備事業を活用して地域の森林組合等が森林整備を推進していますが、間伐を必要とする森林はどの森林組合も非常に多く、また、ひとつの人工林について一定の年数を置いて 3~5 回程度の間伐を行う必要があります、毎年一定面積の間伐を実施しているところです。

将来木を伐って利用することを前提にして植えられたスギやヒノキであるのに、どうして現在の矢作川の上流域にはこうした間伐を必要とする人工林が多く存在しているのでしょうか。その大きなきっかけとなった出来事は、戦後急速な高度経済成長が進展したこと国内における深刻な木材不足が発生したことです。これを早急に解決する必要性から関税をかけない外材輸入が昭和 39 年から始まると、外材に比べて価格が高く、多品目で少量の扱いとなる国産材と比較して、価格が安く、均一に、大量に輸入される外材の方が扱いやすいため、急激に外材の輸入量が増加したことによって、昭和

50年代には国産材の自給率が約20%までに落ち込むほど、国産材の地位が低下してしまいました。

国産材は、こうした外材の輸入増加や、同時期に進展しだした工業製品による代替材の出現等によって、需要の落ち込みによる材価の低迷と、人件費の上昇傾向に伴う木材搬出コストの増大により、木材としての魅力が薄れ、森林所有者においても山に関心がない、山を持っていても何の得にもならない、という認識が全国的に一般的なものになり現在の状況に至っています。このため、森林所有者個人として間伐をして山を育成したり、山から木材を搬出して収入を得よう、という考えを持った森林所有者の方がほとんどいなくなってしまったのが現状であり、間伐による森林整備の時期的な遅れや、さらにそこから木材を搬出して利用しようとする人工林の本来的な活用に取り組めていない地域が非常に大きくなっています。場合によっては、所有されている森林の区域が不明確になっていたり、地域に所有者が居住されていなかったり、そのため森林整備に取り組めない、という厳しい現状を抱えている地域もあります。

こうした上流域の人工林の整備状況は、矢作川流域住民の社会生活に必要な水資源の安定供給に大きな問題として関わってきます。水資源が不足することなく安定的に供給されること、大雨などの異常気象の際に、地滑り、山崩れ、鉄砲水、洪水、河川の増水による堤防の欠壊等、下流域での水害を未然に防止するためには、上流域にある森林資源が常に適切に整備されている必要があります。

では、こうした矢作川流域内の森林整備をどのように適切に進めていくべきなのでしょう。こうした課題の解決に向けた取り組みを検討するには、個々の行政単位の枠を超えて、流域単位の共通認識を持って取り組む必要性から、国土交通省が関係する市町村や関係団体、市民に呼び掛けて「矢作川流域圏懇談会」を立ち上げました。そこで、課題のテーマごとに山、川、海の3部会を設置して、この中の山部会で検討を進めているところです。ここでは、適切に森林整備を推進していくためには、どのように森林整備を推進していくべきなのか、それを担う人々が山村等で経済的に安定し自立した生活をしていくためにはどうしたらよいのか、現在どんな方々がどのような方法で山村や里山での営みを見出しているのか、ということをも山村や里山、矢作川流域に関係する様々な立場の方が集まって検討しています。その過程の中で、森林整備を推進させるためには、その担い手である森林組合や素材生産を営む者、山村住民が経済的に安定し自立した生活を持続可能なものにすることが重要であるという認識がなされました。同時に、こうした山村での経済的自立を支える地域産業として、林産業の振興こそが重要であり、このためには下流域の住民等に上流域の森林資源を利用してもらう「木づかい」を推進していくことが、課題解決のための一手法であるという共通認識が生まれました。

矢作川の上流域にある人工林を下流域の方々によってきちんと活用されることが、森林整備を進め、そのことによって、水資源の安定供給や持続可能な山村社会の形成に結びつきます。地元の木を地元で使って、地域社会を形成していくという、ごく当たり前の図式を、私達はこの矢作川から展開したいと考えています。それには、昔はどこでも

普通にあった地元の木づかいの思想から、流域の共通認識を得ていかなければなりません。そして皆さんの普段の暮らしや、身近な生活空間を「木のある暮らし」に変えていくことがひとつのポイントになります。それも、木ってすばらしいなあー、という木を使うことに対する共感を持って、木をもっと身近に感じていただければと思います。このため、「木づかいガイドライン」は少しでも、皆さんが行動を起こしやすいように、少しでも木に共感を持てる場面を提供できるように市民の目線から、市民、行政、業界、研究機関のそれぞれの立場の方々から様々な提案をいただいて成立しています。

この「木づかいガイドライン」の今日的な意義は、こうした様々な立場の方々や県や市町村、業界に所属しながらも、それらの枠組みを超えて、矢作川の流域単位の意識を持って市民の目線から木づかい運動を進めていこうとするところにあります。行政主導ではなく、木づかいに対して共感を持った木の一ファンからの「木づかい推進草の根運動」と認識していることです。どんなテーマを、どんな提案者が、どんな思い入れを持って提案しているか感じ取ってください。そこがこの木づかいガイドラインのポイントです。職制上や組織としての提案もありますが、基本的に木に対して思い入れのある提案者による「さあ～しよう」という内容の提案となっています。

木づかいガイドラインによって、すぐに役立ち一生使える技能も身につけて頂けると思います。そうして、木づかいを覚えていただいたら、今度はあなたが主役になって木づかいを進め、また提案してください。そうすることによって、新たな木づかいのテーマや、人の輪や、木の先生が生まれていくことでしょう。このサイクルはきっと間違いなく、地域を元気にしていくものだと思っております。

木づかいガイドラインを始めて手にした方々へ

「木のある暮らし」を始めるためのガイドラインの楽しみ方

「木づかいガイドライン」はあなたが主役になって、あなたのライフステージを「木のある暮らし」に変えていく楽しい提案がたくさんついています。最初は、あなたが取り組めそうなテーマを選んで、ご自身自ら楽しんでみてください。テーマは様々な木づがいから、森に出かけていって楽しむものまでとてもたくさんあります。

あなたが「木のある暮らし」の扉を開くと、そこには森や、森や木に関わる人達のもとても大きな人の輪につながる無現の世界が広がっています。その世界は、あなたの心の中にきつととても魅力的で豊かな時間を作り出すことでしょう。

木の楽しみの原点は何でしょうか。それは、自分の好きな木を使って、自分の思い通りに様々なものをつくることです。木を手にとって、まず木の温もりを感じてください。その木と友達になってください。木の木目や色合いや香りを感じてください。そこから、あなたが木と共に過ごす時間と比例して自然に高まる知識や技能を楽しんでください。今まで知らなかった魅力的な世界が目の前に一杯広がっていることをあなたは感じることでしょう。自らの手づくりよって「木のある暮らし」を始めることによって、木と友達になって自分の時間を作り、そして自らの知識と技能を高めて「生活の品質」を高めてみてください。

いくつものテーマの中で、あなたができるようになったもの、それは、今度あなたがその場面で主役になれるということです。そのテーマの技術を使って今度はあなたが主役になって木の魅力を多くの人に伝えてほしい、と思います。そこで、なにか課題を感じたらこのガイドラインにのっている方々に相談してみてください。きっと、参考になるたくさんのヒントを教えてくれることでしょう。また、新しく得られた知識・経験・技能は木づかいガイドラインに提案してください。皆で、矢作川流域の木づかいの場面や品質を高めていきましょう。

木づかいガイドラインを作った私達は、これから矢作川の流域圏を活動対象とした「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を開始します。この取り組みはできる限り、各地域のイベントやお祭りなどの時に、木を楽しむイベントを開催して、木の魅力を伝え、同時に木づかいガイドラインも配布して、木のファンを増やしていくことが目的です。このイベントに皆さんが参加され、一緒に木のお祭りを各地で展開していきましょう。あらゆる立場の方々がその立場の垣根を越えて「木づかい」で新たな絆を結びつけていきましょう。そして、流域に住む住民が協力しあいながら、矢作川の流れと共に魅力ある「木のある暮らし」を進める「矢作川ディズ」を楽しみましょう。

木づかいガイドライン 市民編A (案)

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	弓矢づくりにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	根羽
2	自分の好きな木のペンダントを作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
3	自分でマイお箸を作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
4	自分のお家の木の表札づくりチャレンジしてみよう	ネバリン	小学生	根羽
5	自分の好きな板をピカピカに磨いて自分だけの宝物にしてみよう	根羽小	大人	根羽
6	自分で薪を作ってドラム缶風呂を沸かし湯につかろう	ネバリン	小学生	根羽
7	木の葉っぱで部屋の匂いをよくしてみよう	根羽小	小学生	マイルーム
8	木のカルタ取りにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	原っぱ
9	自分のマイツリーを見つけて名前をつけよう	丹羽	ファミ	恵那
10	いよいよ自分で森づくりにチャレンジしよう (サクラ山・花の山)	伐採者秀美	新婚	根羽
11	木の幹 (マイツリー) にハンモック (どこでもマイウッドデッキも) を吊るして涼しく昼寝してみよう・山の中のコーヒータイムを楽しもう	丹羽・ハンモック 2000	ファミ	恵那
12	ツリーハウスに遊びに行こう	豊中建設	ファミ	根羽檜原
13	自分だけの露天風呂と足湯を手に入れよう	ネバリン	女子	根羽檜原
14	自分のお風呂に木を浮かべて香りを楽しもう	根羽小	女子	お風呂
15	日本の代表 50 種の樹木を覚えよう (葉の標本づくりにチャレンジ)	豊田森組	大学生	豊田
16	自然の生き物観察場所の看板を立てよう	豊田森組	小学生	豊田
17	日本人なら木のお風呂のある温泉につかろう (中房温泉)	中房温泉 沖・松井	熟年・ 青年 (土 屋・長谷 川)	安曇野
18	チェーンソーアートを学ぼう	ネバリン	青年	根羽
19	色々な木のおもちゃづくりや木工工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
20	きれいな川で遊ぼう	JTN	小学生	根羽
21	自分だけの滝に道を開けてマイナスイオンを浴びよう	こもれび	女子	根羽
22	木のある公園のウッドデッキで読書しよう (ブックレビューもつくろう)	ネバリン	読書人	安城
23	木と森のある素晴らしい大学に遊びに行こう (信州大学農学部ゆりのき)	信・名大生	高校生	信大・名大
24	筏 (ボート) で川下りにチャレンジしてみよう	筏隊・アル	中学生	岡崎・飯田
25	木のお店案内ブックをつくろう・木のアンテナショップに遊びに行こう	沖・松井	お仲間	流域内
26	スギダラチームの輪を広げて全生活空間をスギダラけにしよう	若杉・ 丹羽・今村	木の人	豊田駅・トヨタ 自・アイシング ループ・安城市
27	夜空を見上げ星と森の声聴こう	星と森の人	小学生	根羽森沢

28	木の科学実験で木を良く知ろう・木を使おう・木を楽しもう 輪っば弁当箱づくりにチャレンジしよう	根羽小・ 花野屋	小学生 ファミ	エコフルタウン 根羽
29	自分達の力で山の木を搬出して地域通貨を手に入れよう	南木	山親父	根羽・豊田
30	自分達の力で豊田から根羽まで縦走路を整備して休憩小屋を建てよう	山岳会・店	豊田隊	根羽・豊田
31	自分で取り組んだ森の健康診断を活用しよう	矢作川研	豊田人	豊田
33	木の小屋においでよ（中村好文さんと連携）	中村好文	開拓者	遊休農地

木づかいガイドライン 県・市町村編B（案）

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	山主森林経営講座に参加して自分の山を管理の仕方を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
2	森林自然観察リーダー入門講座に参加して自然観察の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
3	間伐ボランティア初級講座に参加してチェンソーによる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
4	山主自力間伐講座に参加してチェンソーを使って自分の山を間伐しよう	豊田森組	豊田人	豊田
5	セミプロ林業作業員養成講座に参加して林業就業者を目指そう	豊田森組	豊田人	豊田
6	森林セミナーに参加して色々な森林を歩きながら森林管理を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
7	矢作川源流の森ウォーキングに参加して源流域の動植物を観察しよう	豊田森組	豊田人	豊田
8	夏休み昆虫観察に参加して森の生き物の生活や不思議さを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
9	初めての間伐体験に参加して簡単にできる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
10	森林調査いろいろ学習会に参加して植生・林分・土壌調査の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
11	「木づかい」いろいろ発見に参加して原木きのこの菌打ちを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
12	森林の草花調べに参加して高原・山地・丘陵の草花を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
13	間伐してベンチの製作まで全工程を自分達で行い、公共施設に寄付しよう	豊田森組	豊田人	豊田
14	様々な山の助成金制度を活用して自分の山づくりに取り組もう	各森組	森林所有者	豊田他
15	様々な木の家づくりの助成金制度を活用して地元の木で家を建てよう	各県	お施主	各県
16	地元の木を使った住宅見学会に参加して地元の木で家を建てよう	各 県 ・ 工務店	お施主候補	各県
17	木造公共施設を訪ねて木の使い方を参考にしよう	豊田・ 根羽・工 務店	市町村	豊田・ 根羽
18	各地で取り組まれている間伐材利用事例を参考に矢作川流域材を活用しよう	各県	市町村	
19	根羽スギの家モデル住宅に体験宿泊して木の家を楽しもう	根羽村	お施主候補	根羽
20	長野県地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	ネバリン	各 NPO	根羽
21	根羽村地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	根羽村	村民	根羽
22	根羽スギ柱材 50 本無償提供事業を使って有利に根羽スギ住宅を建てよう	根羽	お施主	根羽

23	市町村有林を使って新しい森づくりにチャレンジしよう(伐採・造林一貫施業)	ネバリン	森林所有者	根羽
24	市町村有林を使って子供たちに間伐を教えよう	各森組	小中学生	全市町村
25	皆で憩いの森の木道・木橋づくりにチャレンジしよう	ネバリン	市町村	根羽
26	都市の中心部に緑の憩いの公園を計画してつくろう(豊田市・番外飯田市)	豊田飯田	市町村	豊田・飯田
27	長野県 信州型エコ住宅推進事業 50～80万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
28	長野県 信州型住宅リフォーム促進事業 20～50万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
29	岐阜県 産直住宅建設支援制度 105,000円相当の木材支給を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
30	岐阜県 ぎふの木で家づくり支援事業 20万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
31	岐阜県 ぎふの木で内装木質化支援事業 10万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
32	岐阜県 ぎふの木で家づくりローン支援制度 優遇金利による支援を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
33	愛知県 あいち認証材利用促進事業 構造材・造作材等 8,000円/m ³ の助成	愛知県	お施主候補	岐阜
34	材料施工分離発注方式で適正な木材製品価格で計画的に建築材料を入手しよう	豊田市	各市町村	豊田

木づかいガイドライン 業界編C(案)

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	君も人生の方針として自然科学や農林業を選択しよう	ネバリン	中・高校生	根羽
2	君も、自分が主役になれるクリエイティブ産業・農林業の担い手になって地域を元気にしよう	ネバリン	信大・名大・岐阜女子大他	根羽
3	君も夢と希望あふれる地元の森林組合職員になって、豊かな自然の中で森づくりと木づかいを楽しもう	ネバリン	山の人	根羽
4	森づくりの達人(森の民)になるために様々な技能を身につけよう	各森組	山の人	全流域
5	森林簿と施業図を使って自分の山を覚えよう	豊田森組	森林所有者	豊田
6	自分の山づくりのプランを建ててみよう(オーダーメイドの山づくり)	ネバリン	秀美	根羽
7	様々な木材の搬出方法を見学しよう	各森組	山の人	全流域
8	山の技能作業手順書をマスターしよう	ネバリン	山の人	根羽
9	自分の山の木がいくらになるか森林施業プランを提出してもらおう	根羽・恵南	山の人	根羽・恵那
10	自然を楽しむ様々なグッズを手に入れて自然の中に飛び出そう	洲崎	女子	豊田
11	国産材の家づくりに実績のある工務店・建築士さんに会いにいこう	お施主	お施主候補	全流域
12	机やイス・家具など一生使える木製品の注文をしよう	阿部建設	ファミ	根羽
13	一生使える机やイス・家具など木製品を家族で製作してみよう	阿部建設	ファミ	根羽

14	魅力ある国産材製品のカタログを入手して木のある暮らしをはじめよう	販路開拓	ファミ	長野
15	森づくりと木づかいに取り組む、知って得して面白い魅力的な方のお話を聞きにいこう	事例集	市民	全流域
16	製材工場の端材を使って小屋づくりをしよう	ネバリン	山の人	根羽
17	住宅建築フェアを見に行こう	ネバリン	お施主候補	開催地
18	東京おもちゃ美術館を見学し児童向け木のおもちゃを研究しよう	ネバリン	保育園	東京
19	ナイス企画 需要創造型イベント・体感ツアー・木の感謝祭に参加しよう	ナイス	市民	豊田
20	ナイス企画 ナイスパワーホーム豊田プレミアムのコンセプトを学ぼう	ナイス	市民	豊田
21	木曾川流域材の家づくりのシステムを学ぼう	ナイス	市町村	豊田
22	オークビレッジ木の時間工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
23	木の工作に必要な広葉樹を育成しよう	ネバリン	山の人	全流域
24	スギダラどこでもシリーズで世の中をスギダラけにしよう	ネバリン	市民	全流域

木づかいガイドライン 研究編D (案)

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	地元の大学と地域連携協定を締結して、山村・里山の課題解決に向けて学生と一緒にチャレンジしよう	信大	市町村	根羽
2	持続可能な地域づくりに向けて里山の課題を市民から集めよう	信大	市町村	根羽
3	次世代に向けた森づくりと低コスト造林を確立しよう	信大	山の人	根羽
4	スギ人工林の植物種多様性を評価し、生物多様性保全に留意した森づくりに取り組もう	信大	森林所有者	根羽
5	伐採後に発生するスギ針葉から精油を抽出して商品化に取り組もう	信大	女子	根羽
6	農林一体化事業を支援する地理情報の可視化手法を開発しよう	信大	市町村	根羽
7	山村の聞き書き調査を行い、山村文化を発掘し継承しよう	実践者	対象者	根羽
8	雪害被害林の今後の施業指針を確立しよう	信大	市町村	根羽
9	集落周辺の森林について保残木マーク施業等景観林施業を確立しよう	ネバリン	集落	根羽
10	スギ重ね梁の実用化を実現させよう	ネバリン	工務店	根羽

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット（市民編案）

区 分		内 容			
さあ~しようのテーマ					
いつ					
どこで (位置図)					
内 容					
対象者					
対応する者					
面白い点 魅力的なところ					
必要な時間					
必要な金額					
準備するもの					
イメージ (映像)					
お薦めポイントは					
参加者からのレビュー					
対象年齢	衝撃度	神秘度	リピーター率	安全性	ステージ表

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット (市町村編案)

区 分		内 容		
さあ~しようのテーマ				
内 容				
対 象 者				
対象者の条件				
魅力的なところ				
必要な時間				
必要な金額				
準備するもの				
イメージ (映像)				
お薦めポイントは				
利用者からのレビュー				
対象年齢	衝撃度	やってよかった度	他県普及性	市民貢献度

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット（業界編案）

区 分		内 容		
さあ~しようのテーマ				
内 容				
対 象 者				
対象者の条件				
魅力的なところ				
必要な時間				
必要な金額				
必要なメンテナンス				
イメージ（映像）				
お薦めポイントは				
利用者からのレビュー				
対象年齢	衝撃度	やってよかった度	他県普及性	市民貢献度

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット (研究者編案)

区 分		内 容		
さあ~しようのテーマ				
内 容				
対 象 者				
研究の魅力的なところ				
必要な時間				
事 業 費				
イメージ (映像)				
研究のお薦めポイントは				
研究者からのレビュー				
市民貢献度	衝撃度	おすすめ度	他県普及性	発展性

～人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす

森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルへの誘い

矢作川ディズ～



森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルはとても素敵です。身近な生活空間の中に魅力的な木の製品をたくさん取り入れてみましょう。矢作川の流れを見つめ、自然の息吹に耳を傾けてみましょう。愛知・岐阜・長野の3県を流れる矢作川流域圏を対象としたこの「木づかいガイドライン」には、そんな森

林や木の魅力や、それを育む矢作川流域の自然環境に出会い、流域に暮らすひとり一人が未来にむけて互いに関わり合いながら、豊かで魅力的な地域社会を目指して活動していく（楽しむ）ヒントがたくさん書かれています。

この本を作った私たちは、森林や木の魅力や矢作川の自然環境をたくさんの方々に伝え、森林や木や矢作川の自然環境と触れ合うことで市民の輪が広がり、そのことで地域が元気になっていくことを願っている一市民です。それぞれの様々な立場や経験から、森林や木や矢作川の流れに対する愛情や想いや妄想もたっぷりこめて、矢作川流域に住む方々のために、もっと森林や木を好きになろうよ、もっと地域の木を使ってみようよ、もっと森林や木と共に生きている人達と友達になろうよ、そして地域に住むひとり一人が矢作川の自然環境の素晴らしさを共有し、皆で未来に向けて魅力的な森林・川・海・街になるようにアクションを起こし育てていこうよ、という考え方を基本にして市民の目線からこの本を作りました。



根羽村の子供が魚つかみの先生です



山村の若者たちが楽しい出会い企画を作りました

この本を読むときっと、あなたのライフスタイルが素敵な森林や木の製品に彩られることになるでしょう。訪ねてみたくなる森林やお店、森や木と共に生きている人と直接会って、話してみたくなることでしょう。もっと多くの同じ気持ちを持つ仲間と出会って、魅力的な地域づくりに参加してみたくなるでしょう。そんなことを通して、あなたの心が今よりもっと明るく朗らかにそして大きく広がって、森林や木とそ

れを育む矢作川の流れと共に生きていく素敵なライフスタイルに目覚められることを期待しています。

こんなライフスタイルは、きっと私たちの暮らすこの矢作川の上流から下流に暮らす人々の交流や結びつきを高めることになるでしょう。今まで以上に流域に住む人々への尊敬や感動、そして地域に対する思いやりの心、協力しあうことの大切さに気がつくことになるでしょう。こうしたライフスタイルの基本となるような、地域とそこに暮らす人々と共に生き愛する気持ちが、矢作川の流れを地域の心の絆として、私たちにとって本来あるべき、そして未来に亘って暮らしやすい持続可能な流域を作り出していくグッドスピリットであることに違いありません。



住民によって整備された矢作川古岸水辺公園

私達の故郷の源である矢作川の流れを見つめ、いつまでも美しい森林と川と海に囲まれて人生を楽しみ、愛する家族と共に幸せに暮らすことができるように、今こそ流域に暮らすひとり一人の住民の意識改革から、この豊かな自然環境を持続可能な財産として皆の手で育み、ずっと暮らしていただきたい魅力的な矢作川流域的生活空間「矢作川ディズ」を創り上げていきましょう。

地方創生で取り組みたい特色ある事業について（案）

市町村(所管部署)名： 根 羽 村

担当所職氏名：

<p>事業名</p>	<p>山村における一次産業の担い手確保を目的とした夢と希望の山村定住化推進事業</p>
<p>事業の概要</p>	<p>1 目的</p> <p>根羽村は地域資源を活用した持続可能な村づくりを目指しており、特に遊休農地を活用したとうもろこし・そば等の生産と、成熟した森林資源を利用して伐採・製材加工・販売までを行う林産業に力を入れている。こうした、山村における一次産業の技能を持った担い手の育成・定住化を図るため、移住者となる新規就業者が夢と希望を持ち、農林業によって山村に定住できるように、地元地域材による新築木造住宅「夢と希望の持てる山村ライフ定住化住宅」の建築費について支援することを目的とする。</p> <p>また、こうした山村就業希望者のための新築木造住宅については5タイプにモデル化して入居希望に配慮するものとする。建築場所は村中心部及び限界集落の2パターンに分けて建築することとし、一定の遊休農地を斡旋して若い世代が地域資源を活用して山村のライフスタイルを確立でき、さらに地元の一次産業の先生から農林業のノウハウ等の指導を受けながら、将来の地域リーダー役を担えることも目的とする。</p> <p>さらに、こうした地元地域材を活用した「山村ライフ定住化住宅」建築による「過疎化対策」の方法論モデル地域として全国に発信することにより、「夢と希望の持てる山村ライフに配慮した5タイプの山村ライフ定住化住宅」＝「山村ライフ」を商品とした販路拡大による当村の林産業の振興を目的とする。</p> <p>2 概要</p> <p>根羽村では人口の自然減少傾向が続いており、持続可能な村づくりのためには、地域の再生産に結びつく若者定住の促進を図る必要がある。また、こうした山村の定住促進にあたり、若い世代が地元で結婚し、夢と希望を持って山村ライフを送れるように、特に山村景観・山村資源の活用（薪等）を考慮した「一定水準の品質を持った住まい」（恒常的な住まい）と「一定量の遊休農地」の確保に対する配慮が求められる。</p> <p>現況では、新規の就業希望者の住まいはあっても、その大半が空き家・空き室であった時間が長かったため、カビ臭かったり、室内の感じが古臭く暗かったり、どれも相当の経年劣化が進んでおり、ただでさえ人口の少ない山村において非常に寂寥感が漂うことが多い。また、農林業等の一次産業は、一般的に所得水準が低いため、現状ではこうした暗い感じの空き家・空き室に入居すると、さらに輪をかけて寂寥感に苛まされる。山村ライフのスタートが暗過ぎて、とても夢と希望を持って山村に移住しようなどとは思えないし、結婚できるか不安になるし、楽しい新生活が待っているなどとは想像しにくい。</p>

	<p>ところが、こうした山村の一次産業にチャレンジしようとしている志を持った新規就業者に対して、山村景観・山村資源の活用を考慮した「一定水準の品質を持った住まい」や「一定量の遊休農地」を支援してあげることができれば、少なくとも住まいに対する不安はなくなり、結婚して新生活を始めることや、新規農林業に向けたチャレンジが可能となる。なお、林業は森林組合の技能職員としての就業を想定している。</p> <p>実際、婚活支援をしている当村では、山村の未婚の男性と山村に住みたい、という女性も少なからず存在していることを認識しており、いかに農林業による夢と希望のある山村ライフを支援・確立させてあげられるかが、新規就業希望者の定住促進の鍵となっている。そのような「夢と希望の持てる山村ライフ定住化住宅」の様子は次のとおりである。</p> <p>住まいの基本形は「一定水準の品質を持った住まい」（恒常的な住まい）である既存の根羽村森林組合オリジナル商品「小さく住まう魅力的な木の住まい」を基本形とし、これに夢と希望の山村ライフに必要な「薪ストーブ」と農林業用「アクティブハウス」（小屋）を追加する。</p> <p>1棟の建築費は15,000千円、これに「薪ストーブ」と「アクティブハウス」分2,000千円を追加して、1棟17,000円とする。</p> <p>そこで、次のような山村定住推進事業メニューを要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山村における新規農林業等一次産業就業者のための国産材木造住宅建築支援 ・上記対象者に対する国産材木造住宅ローンの低率融資の認可措置 <p>その他、関連して下記事項について要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規一次産業就業者の利用する遊休農地基盤整備事業の優先採択 ・新規一次産業就業者遊休農地・森林資源活用に向けた備品購入等に対する起業支援 ・山村における農林産物の販路・市場開拓に向けた経費支援
<p>予 算 額</p>	<p>山村における新規一次産業就業者のための国産材木造住宅建築支援</p> <p>① 「夢と希望の持てる山村ライフ定住化住宅」建築支援金 17,000千円/棟×0.7（補助率）×10棟＝119,000千円</p> <p>② 上記に伴う国産材木造住宅ローンの低率融資の認可措置 入居者負担 17,000千円－（17,000千円×0.7）＝5,100千円 ローン設定 5,100千円→6,000千円（25年償還）35歳借入→60歳完済 月返済額 6,000千円÷25年÷12ヶ月＝20千円/月（経費負担を軽くする）</p>
<p>成 果 目 標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業の新規就業者の増 最大で4人/家族×10家族＝40人の増 ・とうもろこし等特産品の生産による1家族あたりの農業による所得増 とうもろこし利益20万円/反、白菜利益10万円/反、ほおずき利益50万円/反 年間2反歩（とうもろこし・白菜同じ個所）の利用で80万円/家族の収入増 ・根羽村森林組合の売上増 材料費320万円/棟×10棟/年×3市町村＝9,600万円の売上増 ・根羽村森林組合への就業者増 10名

上下流と連携して流域内パートナーとして地域経済の確立によって山村が活きる思想

信州大学農学部技能訓練校 先生としての職業

チャレンジした結果、失敗している者・失敗した者でチャレンジ継続者を先生とすること
生きていることは無限に楽しく面白いだろうと思っている者を先生とすること

レッテンバッハのクラブ思想の導入 「木のある暮らし」を絆としたクラブ
スギダラ矢作川流域支部＝ネバリン特殊木工部隊スギダラ＝里山サロン＝木のあ
る暮らしギャラリー＝田舎の先生 365 日技能講習＝県境・行政の枠を超えた人の
輪＝それぞれの立場が主役になった地域主体の木の祭り＝地域や流域の元気

誇り ＝森づくり技能・搬出技能・製品づくり技能・木工作技能・経営技能
田舎の品格

自信 ＝根羽村にしかないものを求めて人がくること
根羽村で品質の高いものをつくれること

主役感＝誇りと自信を持った自分が「森の民」としてやるべきことをやっている実感

流域で活きる技能
アイデアトレーニング

地理情報活用技能



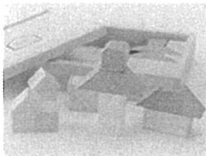
ウッドスタート宣言市町村

W 「ウッドスタート宣言」

日本各地の市町村が賛同！地域色を活かしたウッドスタート宣言。

全国の自治体で、以下の6項目のうち、2項目以上を約束することによって、ウッドスタート宣言を公式発表し、調印式を行うことができます。

例えば地元の木工職人が地元の木材で作った木のおもちゃを新生児に送る「ウッドスタート」はその代表例です。その他各地の木材や文化を活かし、こうした取り組みが森を守る循環型のシステムに発展することを願いながら、全国のウッドスタート宣言市町村が、地域ならではの木育推進プログラムを展開中です。



「誕生祝い品」..

地産地消の木のおもちゃを新生児にプレゼント

地元の木工職人が地域材で作った木のおもちゃを新生児に贈る取り組み。各地の木材や文化を活かしたオリジナル玩具づくりが着々と進んでいます。

●詳細はこちら



「木育インストラクター」..

地域で木育推進のリーダーとなる人の養成。

私たちは、モノ(木のおもちゃ)と場所(木育ひろば)に加えて、人(木育インストラクター)の養成にも力を入れています。この「人」が、その地域で、木と触れ合う場所を活かし、学びを提供し、木とともに生きる方法を提案していきます。

●詳細はこちら



「子育てサロン」..

地域材を活用した木質感あふれるサロン

私たちは、「木」を真ん中にした子育て活動を推進しています。そのシンボルとなるのが、「赤ちゃん木育ひろば」。日本の木力と魅力と、職人やアーティストの技と美学が結集した子育てサロンです。

●詳細はこちら



「移動型おもちゃ美術館-木育キャラバン」..

木の良さ・楽しさを体験できる木育キャラバンの実施

移動型おもちゃ美術館「木育キャラバン」が、全国各地に素晴らしいおもちゃとの出会いの場を創ります。誰もが木のおもちゃで遊ぶことができる空間を生み出し、国内外のおもちゃ作家による木製玩具を楽しんでいただける。それが「木育キャラバン」です。

●詳細はこちら



「木育円卓会議」..

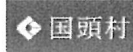
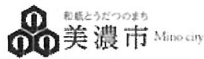
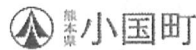
地域の木育推進をみんなで考え語り合う円卓会議

●詳細はこちら 森林・林業・林産業に従事する人たちと、子育て支援関係者、自治体の担当者を一同に介し、地域の今と未来を「木育」という切り口で議論します。

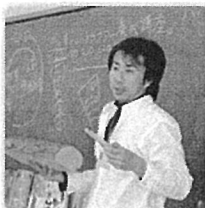


私たちの活動をみる

ウッドスタートとは何かを見る
 ◎ 詳細はこちら [遊びと文化を大切に、地域の森林資源をふんだんに取り入れた「おもちゃ美術館」の姉妹館。これを地域の力で作り上げ、地域の魅力・遊びの充実を目指していきます。](#)



木育キャラバン



木育インストラクター



木育円卓会議



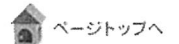
企業との連携



ウッドスタート宣言市町村

1,017
 いいね!
 シェア
 木育ラボ

facebookページへ



イベント情報
■ イベント一覧

木育って何？

- ウッドスタート
- ウッドスタートとは
 - ウッドスタート宣言市町村
 - ウッドスタート宣言企業

- 活動紹介
- 木育キャラバン
 - 木育インストラクター
 - 木育円卓会議
 - 企業との連携

私たちについて
■ お問い合わせ



ウッドスタート宣言企業

W 「ウッドスタート宣言」

日本各地の企業が賛同！企業色を活かしたウッドスタート宣言。

私たちが目指しているのは「100の企業」と「100の自治体」を結びつけること。

環境保全による社会貢献を目指す「企業」と地域材の利活用を積極的に推進している「自治体」とが、手と手を取り合うことで、企業の社員も元気になり、林業・林産業も活性化する。
そして、日本の森林を元気にする大きなエネルギーにもなるのです。



企業でスタート！木育化！

9つのプログラムのうち2つ以上を実施すると、「ウッドスタート宣言」ができます。
あなたの企業も、「ウッドスタート宣言」で、環境保全による社会貢献活動をしてみませんか？



I

オフィス文具
ノベルティの木質化

企業内保育所の
木育化

オフィスを国産材で
内装木質化

店舗・ショールームの
木質化

社内研修に
木育プログラムを導入

企業が主体となって
森をつくる

企業様のお問い合わせ

私たちの活動をみる

以上の項目にあてはまらなくても、検討判断を行い、認定項目とします。

その他、以上の項目にあてはまらなくても、積極的な利用が認められている法人に対しては、その都度検討判断を行い、認定項目としてカウントします。木質バイオマスによる発電などもその一つです。



木育キャラバン



木育インストラクター



木育円卓会議



企業との連携



ウッドスタート宣言市町村

1,017

いいね!

シェア

facebookページへ

ページトップへ

イベント情報
■ イベント一覧

木育って何?

ウッドスタート
■ ウッドスタートとは
■ ウッドスタート宣言市町村
■ ウッドスタート宣言企業

活動紹介
■ 木育キャラバン
■ 木育インストラクター
■ 木育円卓会議
■ 企業との連携

私たちについて
■ お問い合わせ

copyright 特定非営利活動法人 日本グッド・トイ委員会 All rights reserved.

